



笑顔で和やかに思いを語るお二人

『自分のために踊る』という意識から、
『人のために踊る』という意識に変わった—
それが私たちの転機でした。

—ダンサーの皆さんにとって、野外バレエ
ならではの苦労はありますか？
今村 踊るのは大変難しいです。というの
もダンサーは普段、劇場の壁や空間の中で
自分の位置を把握して踊ります。それが野
外に出て、空間が広がってしまうと中心が
分からなくなってしまうので、慣れるまで
とても大変です。あとはお天気ですね。湿度
によって舞台のコンディションが違ったり、
霧が出たりすることもあるので、同じ演目
でも細心の注意が必要です。
川口 あとは標高が1300mの高原なの
で、最初の頃は過呼吸になってしまっこと
も…。今は皆だいたい慣れて強くなりました
ね(笑)。
—東日本大震災の際には、被災地の支援も
されていたことですが、具体的にどの
ような活動をされていたのでしょうか。

川口 ゆり子

橋バレエ学校卒業後、牧阿佐美バレエ団入
団。橋秋子、牧阿佐美に師事。昭和39年橋
秋子振付『運命』の主役でデビュー。昭和44
年ニューヨーク留学、イゴール・シュバツ
コフに師事。帰国後、牧阿佐美バレエ団のプ
リマとしてすべての作品の主役を踊る。芸
術選奨文部大臣新人賞、橋秋子賞、服部千
恵子賞、平成18年紫綬褒章など多数受賞。

今村 博明

大牟田市の井形久仁子バレエ研究所にて
5歳からバレエを始める。昭和44年江川
明に師事。昭和49年バレエ協会公演『コッ
ペリア』で主役デビュー。昭和51年にロイ
ヤルバレエスクールへ留学。帰国後、牧阿
佐美バレエ団入団。日本を代表するプリン
シパルダンサーとしての地位を築いた。橋
秋子優秀賞、橋秋子特別賞など多数受賞。



第30回 清里フィールドバレエ「ドン・キホーテ」より

1989年創設以来、野外バレエ、被災地支
援とその活動の幅を大きく広げ、多くの人
に愛される八王子のプロバレエ団。どのよ
うな想いで人々にバレエを届けてきたのか、
総監督の今村博明さん、芸術監督の川口ゆ
り子さんにお話を伺いました。
—なぜ八王子でバレエ団を立ち上げたのか、
設立当初のことを伺いたいのですが。

川口 私が八王子生まれなので、八王子に
も素晴らしいバレエをもっていきたい、皆
様に見ていただきたいという想いから設立
しました。
今村 始まりは、川口ゆり子バレエスクー
ルの創立10周年記念で『くるみ割り人形』
を上演した際に、これは一定のレベルまで
いったのではないかと、思いついて。八王
子で年に一回バレエ公演を、という目標を
もって「八王子ユースバレエ」という団体を
つくりました。そして平成元年に第1回目
『くるみ割り人形』を上演したのがきっかけ
です。その後、バレエスクールを卒業した若
い子たちの活躍の場をつくってあげたいと
いう気持ちから、『ユースバレエシャム
ブルウエスト』として活動を続けていきました。
そのうちにダンサーたちが、「先生、もうわ
たしたちユースじゃない」と言い出した
ので(笑)、平成4年に『バレエシャムブル
ウエスト』に改名しました。

『バレエシャムブルウエスト』という名前
の由来は何でしょうか？

今村 実は、ある雑誌社の編集長がつけて
くださったもので、『ウエスト』は西、シャ
ムブルはフランス語で部屋という意味。ハ
王子は東京の西にあり、西は極楽浄土があ
ると言われる幸せな場所。西の部屋でバレ
エの花が咲きますようにというイメージを
込めてくれたのだと思います。

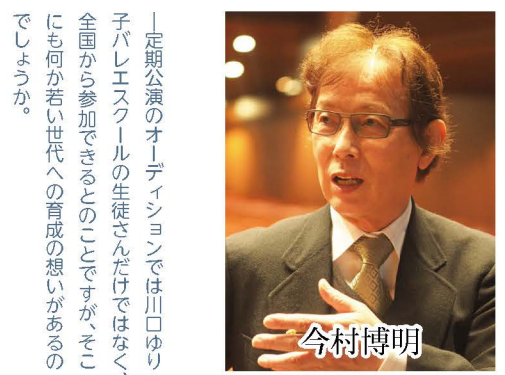


練習の様子

今村 あの震災は、本当に思い出すと辛く
なる出来事です。震災から1か月経った
頃に『萌木の村』の船木さんから、「東北へ行
きましょ」とお電話をいただいて、「行き
ます」と即座にお返事をして、移動式の
大きな自動オルガンに、仮設のトイレもト
ラックに積んで、食料も持っていきました。
大工さんが避難所の広場に6畳くらいの舞
台を作ってくれて、6〜7人での小さいツ
アーを、1か月のうちに交代で26回行いま
した。

川口 ある避難所で、車椅子でずっと下を
見ていたおばあさんが、終演後に立ち上
がってこちらに来てくれて、「三、綺麗だっ
た」と。当時はまだまだ大変な状況下で、本
当に私たちが行っているのだからかという
時期でしたが、「ああ、やって良かったと思
いました」。

今村 参加したダンサーたちは、心がすこ
く成長しましたね。それまでは、『自分のた
めに踊っている』という意識の子がほとん
どでしたが、『人のために踊るんだ』という



今村博明

—定期公演のオーディションでは川口ゆり
子バレエスクールの生徒さんだけではなく、
全国から参加できるのことでありますが、そ
こにも何か若い世代への育成の想いがあるの
ではないでしょうか。

川口 バレエでは、「稽古場で百回稽古を
したことが一回の公演で身に付く」という
教えがあります。ですから、J・COMホー
ル八王子のような大きなホールでの舞台に
立たせてあげたいという想いがあります。

今村 全幕のバレエは、踊りだけでなくお
芝居もしなければいけません。また、そこ
には衣装や照明、美術、オーケストラ、と一
人の力ではできないものを大勢でつくり上
げるという総合芸術があつて、それを感じ
て欲しいと思いました。子ども時代になら
なかった一流の舞台を体験するのは、心を成
長させるでしょうね。

—バレエシャムブルウエストといえば、毎
年夏に山梨県の清里で行われる野外公演
『清里フィールドバレエ』も有名ですよね。
これはどのような経緯で始まったのでしょ
うか？

今村 私がイギリスのロイヤルバレエス
クールに留学していた時に、師事した先生
がフランスに別荘を持っていて、毎年そこ
にエトワール(主役級ダンサー)たちを呼
んで野外でガラ公演をしていたんです。そ

意識が変わった。それがバレエ団全体に伝
わって。

川口 ダンサーたちにとって、自分たちに
は与える力もあるんだ、という気づきに
なつて…。そこからみんなずいぶん大人に
なつた。それまでは「綺麗に踊ればいい」
と自分のためのバレエだったのが、被災地
に行つて初めて「人のために踊る」というこ
とを経験して、あれは私たちが変わった転
機だったかもしれないですね。

—「人のために」という想いが根底にあるか
らこそ、こんなにも魅力的に輝いていらっ
しやるんですね。お二人のお気持ちダン
サーの皆さんにも引き継がれているので
しょうね。

川口 今村は「とにかく心で踊れ、それが一
番大切だ」と団員にいつも言っています。デ
フニツクもすごく大切な事ですが、それ以
上にもっと大切なのは「心だ」と思っていま
す。

今村 私たちが「教わっていた時」「踊つ
ていた時」を経て今は次の世代に伝える
時。年代が上がるにしたがつて、自分たち
がやらなければならないことが増えてきた
のかも知れません。



白鳥の湖

★バレエシャムブルウエスト 公演情報★

第33回清里フィールドバレエ「ドン・キホーテ」

7/29(金)~8/8(月) ※8/3(水)休演 19:00開演 清里高原 萌木の村 特設野外劇場 全席指定

【一般】SS ¥12,000 S ¥8,000 A ¥7,000 ※4歳~小学生 ¥3,000(A席のみ)

※4歳未満隣上鑑賞無料 ※財団でチケットのお取り扱いはありません。

総監督:今村博明 芸術監督:川口ゆり子 【お問合せ】萌木の村 0551-48-3522



バレエシャムブルウエスト第94回定期公演「眠れる森の美女」

10/8(土)・9(日) 8(土)17:00開演 9(日)16:00開演 J・COMホール八王子 全席指定

【一般】SS ¥10,000 S ¥8,000 A ¥5,000 【親子席】SS ¥15,000 S ¥12,000 A ¥7,500 ※お子様は小学生まで

出演:大阪交響楽団(管弦楽) 磯部省吾(指揮) オーロラ姫:松村里沙、柴田実樹 王子:江本 拓、芳賀 望

【お問合せ】(株)B.シャムブルウエスト 042-624-4037



川口ゆり子

ここに私と川口も招かれました。ヨーロッパ
では夏に劇場が閉まるのと、雨も少ないこ
ともあって、野外でのコンサートが結構多
かったんです。いつか日本でもこういうこ
とができればいいなと思っていました。あ
る時とある縁で清里の「萌木の村」に遊
びに行つたんです。縁があまりに美しく
驚き、「萌木の村社長の船木上次さんに「こ
こでバレエがやりたいです」とお話しし
たら、「ぜひ、やりましょう」と。船木さん
も子どもや人を育てることに熱心な方で、
とても応援してくださつて。平成2年に始
まつて以来、段々と全国からお客様が来
てくださるようになって、今では「清里フ
ィールドバレエ」がバレエシャムブルウ
エストの代名詞となりました。
—日本とヨーロッパでは雰囲気異なる
かと思いますが、すぐに清里で開催するイ
メージに結び付いたのでしょうか？
川口 すぐにイメージが湧きました。びっ
たりだと思つたから頼んだの。森がすく
きれいでした。生の木に照明が当たつても
うまるで劇場と違います。ダンサーが木
の後ろから登場したり客席を歩いたり、色
んな演出ができるんです。
今村 今年の公演でも花火があがります！
劇場で観るものとは一味も二味も違うもの
が観られると思いますよ。